

2020年2月2日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「“だれでも”わたしの水を飲みなさい」

聖書：ヨハネによる福音書7:37～44

イエスは立ち上がって大声で「“だれでも”わたしの水を飲みなさい」と言う。決して、あなたはいいけど、あなたはダメということはない。「だれでも」である。

ここに「聖書の書いてあるとおり」というのがあるが、この仮庵祭ではイザヤ書の言葉が繰り返し読まれた。「あなたたちは喜びのうちに、救いの泉から水をくむ」と。しかし、実際には喜びのうちに救いに与るのは限られた裕福な者だけであった。祭を祝うのも、楽しむのも裕福な者たち。エルサレムには貧富の格差があり、上の町には富める者が住み、下の町には貧しい者たちが大勢住んでいて、そこはゴミや汚物などの廃棄物や雨水が流れ込む場所でもあった。聖書の「あなたたちは喜びのうちに、救いの泉から水をくむ・・・」という虚しい言葉だけが響き、余りにも人を欺くような現状がこのエルサレムの社会にあった。

実はこの時、イエスは命が狙われていて、この祭りにはいかないと言っている。「イエスはガリラヤを巡っておられた。ユダヤ人が殺そうとねらっていたので、ユダヤを巡ろうとは思われなかった」(7:1)。しかし、「兄弟たちが祭りに上って行ったとき、イエス御自身も、人目を避け、隠れるようにして上って行かれた」(7:10)。結局、祭りにはいかないと言っているにもかかわらず、出向いたのは何故だったのか？

イエスが立ち上がって大声で叫ばざるを得ない状況がここにはあったからであろう。そして「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる」と叫んだわけだ。一部の人たちだけではなく、「だれでも」なのである。

私たちの社会も、相変わらず一部の人たちだけが守られている社会だ。イエスは今なお「立ち上がって大声で」叫んでおられる。もう一つ、イザヤ書の言葉は、決して虚しく、無意味であってはならない。聖書の言葉を蔑ろにしてはいけないという叫びでもある。「わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり」になるのだということ。

私たちは、イエスを信じて聖書の言葉に生きているか？この社会は、聖書の言葉通りの社会か？聖書の言葉が虚しく無意味に蔑ろにされないために、教会はキリストを証しして行く。私たちもまたキリスト者として証しし、キリスト者として生きることが求められている。(神谷)